

[33]

氏名	張麗山
博士の専攻分野の名称	博士(文化交渉学)
学位記番号	東アジア文化博第5号
学位授与の日付	平成26年3月31日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	東アジアにおける土公信仰と文化交渉
論文審査委員	主査教授 二階堂 善弘 副査教授 陶 徳民 副査教授 奥村 佳代子

論文内容の要旨

張麗山氏が提出された学位請求論文「東アジアにおける土公信仰と文化交渉」の構成は以下の通りである。

序章

- 一 日本における土公信仰の研究と問題点
 - 1 陰陽道研究における土公信仰
 - 2 民間神楽研究における土公信仰
 - 3 民俗信仰における土公信仰
- 二 本研究の方法と視点
- 三 研究の目標と構成

上部 中国・ベトナム・朝鮮半島における土公信仰の展開

第一章 土公観念の由来及び太歳との関係

- 第一節 家宅土地神としての宮地主・宮后土・中霽
- 第二節 神煞観念と漢代の犯土
- 第三節 土公信仰と太歳動土

第二章 土公信仰の展開——六朝時代から宋代まで

- 第一節 死後世界における土公
- 第二節 道教における土公の変遷
- 第三節 仏教における土公の受容と衰退
- 第四節 術数における土公の展開

第三章 明清時代の土公信仰及びその宗教儀礼

- 第一節 土公から土地神へ
- 第二節 『地母土公経』
- 第三節 土公・土母と安宅儀礼

第四章 ベトナムにおける土公信仰——土公と竈神の歴史関係を中心として

- 第一節 民俗における土公信仰とその宗教儀礼

第二節	歴史における土公信仰の展開
第三節	土公・竈神の習合と漢民族の移入
第五章	朝鮮半島における土公信仰——巫経を手掛かりとして
第一節	『仏説竈王経』と「十二土公八部神」
第二節	『仏説地心陀羅尼経』と『仏説広本太歳経』
第三節	土公觀念の伝来と受容
下部	日本における土公信仰の受容と変容
第六章	奈良・平安時代の土公信仰とその由来
第一節	貴族社会と土公信仰
第二節	土公関係の漢籍の受容
第三節	土公信仰の伝来と受容
第七章	日本における土公信仰の変容と展開——土公祭を中心として
第一節	日本における土公変容をめぐる問題点
第二節	中世初期の土公信仰
第三節	土公信仰と密教の交渉
第四節	近世の土公信仰
第八章	日本土公信仰の現状
第一節	竈神の土公神
第二節	石神における土公神・天下土公
第三節	長崎旧唐人屋敷の土神と土公神
終章	結論と今後の展望
第一節	東アジア諸国における土公信仰の異同
第二節	異同の原因における異なる文化交渉類型
第三節	示唆と展望

張氏の「東アジアにおける土公信仰と文化交渉」は東アジア地域で広範囲に祭祀される土公神とそれに関連する神格について総合的に論じたものである。

土公は土地神の一種であるが、現在中国民間で広く信仰されている土地公（福德正神）とは性格がやや異なる。現在の中国で土公という言葉はほぼ死語になり、使われなくなった。ところが、日本やベトナムにおいては、今でも土公信仰が残っており、また時に竈神と共に祀られている。

日本における土公信仰は、主に陰陽道、神楽祭祀と民俗信仰の分野において行われてきた。そのため、土公の研究もこの分野に偏ったものになっている。趙氏の研究では、土公信仰の現状や受容の位相から、「中心」と「周縁」という視野における方法論を導入する。そして「中国・ベトナム・朝鮮半島における土公信仰の展開」を周縁とし、「日本における土公信仰の受容と変容」を中心に据えて検討を行う。

第一章では、先秦期の『日書』を利用して土公信仰の由来を考察し、さらにこれまで明らかにされていない土公と太歳との関係を検討する。『礼記』における中霤の家宅土地神たる神格の由来を考察し、戦国時代に宮地主・宮后土などと呼ばれた家宅土地神の存在を確認した。それから、陰陽五行説と深く関わる犯土思想の由来及び『日書』土忌との関係を

検討した。さらに後漢時代の『論衡』における太歳関係の記載の分析を行った。

第二章では、後漢時代から宋代にかけての土公信仰の展開を考察する。買地券からみた地下世界における土公、道教における土公、仏教における土公及び術数における土公の変遷について考察した。大まかにいうと、土公は六朝時代に土地神・犯土神・星神・疫神などの性格を併せ持ち、隋唐時代に術数信仰が盛行するにつれて、より広く信仰されるようになった。

第三章では元以後における土公信仰の変遷を考察した。特に明清時代から土公は土地公信仰と混淆するようになり、世俗化した土地神信仰に統合されてきた。さらに『地母土公経』という民国時代の宝巻の由来や土公関係の記載を検討した。

第四章ではベトナムにおける土公と竈神の習合をめぐって考察する。ベトナムの民間習俗における竈神と土公の信仰現状を踏まえ、土公の性格の歴史的変遷を分析した。土公は古くから中国の中霤神のように「一家之主」として信仰されてきたが、近代になって、漢民族の移民によってもたらされた新しい土地信仰と竈神信仰の影響を受けて、同じ性格と持つ竈神と混淆されたことを解明した。

第五章は朝鮮半島の現在の民俗信仰における土公信仰の欠落に注目し、かつての土公信仰の受容や変遷を考察する。『仏説竈王経』『仏説地心陀羅尼経』や『太歳経』などの巫経における土公の記録を手掛かりとして、朝鮮半島における土公信仰の存在を確認したうえで、その神格における独特の変容の過程を検討した。

第六章では「土公」用語の伝来を中心として、日本奈良・平安時代における土公信仰及びその由来を考察した。平安時代に盛んであった土公信仰は基本的に陰陽関係の漢籍によって日本社会に伝えられたこと、またその主な担い手は陰陽師であることを明らかにした。また土公伝来の初期は神祇官や陰陽寮と交渉があり、特に道教的な影響が強かったことを考察し、特に神祇官の御体御卜における土公観念は六世紀にすでに伝来した道術的な呪禁を使う呪禁師と深く関わっている可能性を指摘する。

第七章では、土公祭を中心として、平安時代末期から近世までの土公信仰を通史的に考察し、特に朝鮮半島や中国からの多重的な伝来を重視して、歴史における陰陽道と密教における土公信仰の変遷を検討した。後世における土公信仰の展開は、平安時代の陰陽道における土公信仰をそのまま継承したものでなく、多岐的な受容・変容が行われたものであることを解明した。また江戸時代においては民間宗教者の活躍によって、土公信仰はより多彩的に展開したことを指摘した。

第八章では、民間に現存する民間習俗や「土公」と刻まれた石碑を中心として、土公信仰の土着化を考察する。現在の土公信仰に於いて、本来の陰陽道的な要素はなくなりつつあり、わずか岡山県の村落でまだ土公神を祀る民俗が残っている。一方、石神として存続している土公神は、神道の猿田彦と習合の関係があり、そして土地神として見做されている。長崎における墓地の土公神は、この日本の土公神観念で新しく伝来した中国の土神観念を受容したものである。

終章では前八章の内容をふまえて東アジア諸国における土公信仰を比較しながら、その変遷について総合的に論ずる。主に土公の神格を土地神・犯土神・星神と眷属神及び竈神などの類型に分けて比較し、形象が異なった原因について分析を行う。最後に東アジアに共通する陰陽五行説を基礎とする呪術信仰体系の存在を改めて指摘し、今後の研究の展望

について述べる。

論文審査結果の要旨

現在、中国を中心とする華人社会では、土地公或いは福德正神を祀ることが広く行われている。そのため土地神に関する研究も、この現在の信仰から遡り、土地公の変遷を分析するものが大多数であった。しかし張氏の論文ではこの立場を取らず、日本における土公信仰に中心を置き、現在の中国の土地神やベトナムにおける土公信仰を参照しつつ、その文化交渉における受容と変容を明らかにする。この独特の観点から、多様な分析結果を導き出している。特にベトナムや朝鮮における変遷についての考証は、独自の価値を有するものである。参考資料も含めて183ページの分量を持つ。総じて優れた研究であり、学位（文化交渉学）に値する十分な内容を備えていると思われる。

よって、本論文は博士論文として価値あるものと認める。